

TONEWORKS  
KORG

PANDORA

PX3BT *REMS*

Bass Personal Multi Effect Processor

取扱説明書

## 安全上のご注意

火災・感電・人身傷害の危険を防止するには

以下の指示を守ってください

### 警告



- ACアダプターを使用する場合は、必ずAC100Vの電源コンセントにACアダプターを差し込んでください。
- 次のような場合には、直ちに電源を切ってACアダプターをコンセントから抜いて、コルグ営業所またはお買い上げになった販売店に修理を依頼してください。
  - ACアダプターのコードやプラグが破損したとき
  - 異物が内部に入ったり、製品に液体がこぼれたとき
  - 製品が(雨などで)濡れたとき
  - 製品に異常や故障が生じたとき



● 修理/部品の交換などで、取扱説明書に書かれている以外のことは、絶対にしないでください。最寄りのコルグ・サービスセンターまたはコルグ営業技術課へ必ず相談してください。

● ACアダプターのコードを無理に曲げたり、上に重いものを乗せたりしないでください。コードに傷がつき危険です。

● 本製品を単独で、またはヘッドホン、アンプ、スピーカーと組み合わせて使用した場合、設定によっては、永久的な難聴になる程度の音量になります。大音量や不快な程度の音量で、長時間使用しないでください。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。

● 本製品に、異物(燃えやすいもの、硬貨、針金など)や液体(水やジュースなど)を絶対入れないでください。



● 次のような場所での使用や保存はしないでください。

- 温度が極端に高い場所(直射日光のあたる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など)
- ホコリの多い場所
- 振動の多い場所



● 濡れた手で、本製品を使用しないでください。



● 風呂場、シャワー室などで、本製品を使用しないでください。



● 本製品を水気のある場所で使用しないでください。

● 本製品に水をかけたり、水をこぼさないでください。



● 本製品およびACアダプターを分解したり、改造したりしないでください。

## 注意



● 本製品は正常な通気が妨げられることのない所に設置して、使用してください。

● 本製品はマイクロコンピュータを使用した機器です。このため他の電気機器を接近して同時にご使用になりますと、それらに雑音が入ることがあります。逆に他の電気機器から本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。

● ACアダプターをご使用になる場合は、必ず指定のものをご使用ください。他のACアダプターをご使用になりますと故障の原因となります。また、使用後はACアダプターをコンセントから抜いてください。



● スイッチやツマミに必要以上の力を加えると故障の原因となりますので注意してください。

● 外装のお手入れは、必ず乾いた柔らかい布で軽く拭いてください。ベンジンやシンナー系の液体は絶対にご使用にならないでください。(コンパウンド質、強燃性のポリッシャーも不可)。



● ACアダプターをコンセントから抜くときは、絶対にコードを引っばらないでください。故障の原因となります。



● 長時間使用しない場合は、ACアダプターをコンセントから抜いてください。絶対にご使用にならないでください。(コンパウンド質、強燃性のポリッシャーも不可)。

## 目次

はじめに	6	プレイ・モード	13
主な特長	6	1. プログラムの選択	13
電池の入れ方	7	2. マスター・レベル	13
バッテリー・エンプティ表示	7	3. バイパス/ミュート	13
各部の名称	8	4. チューナー	14
LCDの表示	9	5. HBB (Hyper Bass Boost)	14
接続しよう	10	6. バリュー・ダイヤル機能設定	15
音を出してみよう	11	イコライザ・モード	16
□ ヘッドホン、ライン、ベース・アンプを 使用する場合	11	リズム・トレーナー・モード	17
□ FMトランスミッターを使用する場合 (FMトランスミッターの使い方)	11	1. リズム・パターン	17
		2. テンポ	17
		3. リズム・トレーナー・レベル	17
		AUXエフェクト・モード	18

フレーズ・トレーナー・モード ----- 19

- 1. 録音モードの選択 ..... 19
- 2. 録音中 ..... 20
- 3. 再生 ..... 20
- 4. 一時停止 ..... 21
  - 録音し直すときは ..... 21

エディット・モード ----- 22

- 1. エディットするエフェクト等の選択 ..... 22
- 2. 各エフェクトのエディット ..... 22
  - 1) DYNA(ダイナミクス) ..... 23
  - 2) AMP(アンプ) ..... 23
  - 3) EQ(イコライザ) ..... 23
  - 4) MOD(モジュレーション) ..... 23
  - 5) D/R(ディレイ/リバーブ) ..... 24
  - 6) NR(ノイズ・リダクション) ..... 24

- 7) LEVEL(レベル) ..... 24
- 8) RENAME(リネーム) ..... 24
- 9) TX(FMトランスミッター) ..... 25
- 10) WRITE(ライト) ..... 25

3. 工場出荷時のプログラムの

再ロードのしかた ..... 26

故障かな?と思ったら ----- 27

エフェクト・パラメーター ----- 29

プリセット・プログラム・リスト ----- 32

リズム・パターン・リスト ----- 33

仕様 ----- 34

## はじめに

このたびは、ToneWorks ベース・パーソナル・マルチ・エフェクト・プロセッサ PANDORA PX3BTをお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

PANDORA PX3BTを末永くご愛用いただくためにも、取扱説明書をよくお読みになって正しい方法でご使用ください。また、取扱説明書は大切に保管してください。

## 主な特長

PANDORA PX3BTは、コンパクトなサイズながら多機能なマルチ・エフェクターです。コルグのモデリング・テクノロジー “*ITEMS*” による、緻密で迫力のあるモデリング・サウンドが手軽に使用できます。

### 44タイプのエフェクト・バリエーション

最大7種類のエフェクトを同時に使用できます。

### 50ユーザー・プログラム、50プリセット・プログラム

### IPE (Integrated Parameter Edit) システム

プログラムを簡単にエディットできます。

### FMトランスミッター内蔵

FMラジオやFMチューナーでPANDORA PX3BTの音を聞くことができます。

### オート・チューナー機能

すばやくチューニングできます。また、音を出さずに(ミュート機能)チューニングすることもできます。

### LCDバックライト

暗いところでもLCDの表示を見ることができます。

### リズム・トレーナ機能

50種類のリズム・パターン、またはメトロノームを鳴らすことができます。

### AUXエフェクト機能

AUX端子に接続したCDプレーヤ等の音をキー・トランスポーズしたり、低音域をキャンセル(ベース・キャンセル)することができ、練習時に威力を発揮します。

### フレーズ・トレーナー機能

CDプレーヤー等の音を録音し(最大16秒間)、ループ(繰り返し)再生します。ピッチ(音の高さ)を固定して再生スピードを落とすことができます。

### ベース・アンプ・シミュレーター

6種類のベース・アンプの音響特性が選べます。

### イコライザ・モード

イコライザの各バンドを、5つのボタンとバリュー・ダイヤルで、すばやくエディットすることができます。

## EQ (イコライザ) ディスプレイ

イコライザの各バンドのゲインをグラフィカルに表示します。

## HBB (Hyper Bass Boost)

小さなヘッドホンを使用しているときでも、迫力ある低音が得られます。

## バリュー・ダイヤル

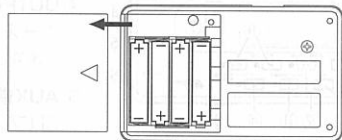
プログラムの選択やエフェクトのエディット等がすばやくできます。

### REMSとは?


REMS (Resonant structure and Electronic circuit Modeling System) は、生楽器や電気/電子楽器の発音メカニズム、発音された音がボディー/キャビネットで共鳴するメカニズム、その音が出ているフィールドの空気感、音の伝達経路としてマイク、スピーカなどの電気/音響的特性、真空管、トランジスタなどの電気回路による音の変化など、音色に関わる様々な要因を緻密にデジタルで再現したコルグ独自のモデリングテクノロジーです。


## 電池の入れ方


ケース裏側の電池カバーを、矢印の方向にスライドして外します。単4型アルカリ乾電池(別売)4本を図のように入れます。向きを間違えないように注意してください。



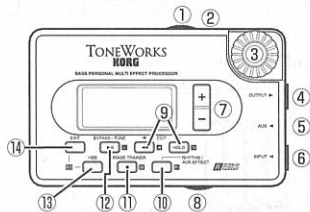
## バッテリー・エンプティ表示

電池容量が少なくなると、バッテリー・エンプティ・アイコン  が点灯します。アイコンが点灯したら、なるべく早く電池を交換してください。電池を外しても、プログラム等(エディット中のものは除く)は消えません。

 使えなくなった電池は、すぐにPANDORA PX3BTから外してください。そのままにしておくと、故障の原因(電池の液漏れ等)となります。また、長時間ご使用にならないときも、電池を外しておいてください。


 電池とACアダプターは付属されていません。別途にお買い求めください。

## 各部の名称



### ① パワー・スイッチ/ バックライト・スイッチ

電源のON/OFFとLCDバックライトのON/OFFに使用します。

 電池で使用した場合、バックライトをONにすると、動作時間が短くなります。

### ② DC9V

別売のACアダプター(コルグA30960J DC9V )を使用する場合、ここに接続します。

### ③ バリュウ・ダイヤル

マスター・レベルの調整、エフェクトのエディット、プログラムの選択に使用します。

### ④ OUTPUT端子

ベース・アンプ、ヘッドホン等を接続します。

### ⑤ AUX端子(ステレオ)

CDプレーヤー等を接続します。

### ⑥ INPUT端子

ベースを接続します。

### ⑦ +/−ボタン

プログラムの選択、エフェクトのエディット、マスター・レベルの調整に使用します。


### ⑧ 入力レベル・スイッチ



ベースの出力に合わせて設定します。

### ⑨ EDIT /> [HOLD] ボタン

エディットするパラメーターの選択や、フレーズ・トレーナーの操作に使用します。

⑩ RHYTHM/AUX EFFECT ボタン  
リズム・トレーナー・モード、またはAUXエフェクト・モードに入ります。

⑪ PHRASE TRAINER  ボタン  
フレーズ・トレーナー・モードに入ります。また、フレーズ・トレーナーの録音を開始するときに使用します。

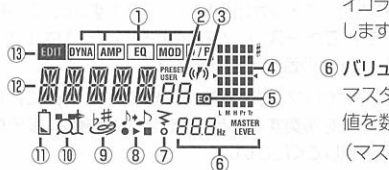
⑫ BYPASS・TUNE   ボタン  
プレイ・モードでチューニングするときを使用します(バイパスまたはミュートされます)。また、エフェクトのON/OFFやフレーズ・トレーナーの再生/一時停止に使用します。

⑬ HBB (Hyper Bass Boost) ボタン  
HBBのON/OFFに使用します。

⑭ EXIT ボタン  
どのモードからでもプレイ・モードに戻ります。また、バリュウ・ダイヤルに機能を割り当てるときに使用します。



## LCDの表示



### ① エフェクト・チェーン

ダイナミクス、アンプ、イコライザ、モジュレーション、ディレイ/リバーブのON/OFFを表示します。

### ② プログラム・ナンバー表示

プログラム・ナンバーとプログラムがユーザーがプリセットを表示します。

### ③ HBBアイコン

HBBをONにしたときに点灯します。

### ④ EQ (イコライザ) ディスプレイ

イコライザがONのプログラムやイコライザ・モードのエディット時に各バンドのゲイン等を表示します。

### ⑤ EQアイコン

イコライザ・モードに入ったときに点滅します。

### ⑥ バリュー・ディスプレイ

マスター・レベルやパラメーターの値を数値で表示します。

(マスター・レベルを表示しているときは **MASTER LEVEL** が点灯します。)

### ⑦ FMステレオ・トランスミッター・アイコン

FMステレオ・トランスミッターをONにしたときに点灯します。

### ⑧ フレーズ・トレーナー・モード・アイコン

フレーズ・トレーナー・モードに入ったときに点滅します。

### ⑨ AUXエフェクト・モード・アイコン

AUXエフェクト・モードに入ったときに点滅します。

### ⑩ リズム・トレーナー・モード・アイコン

リズム・トレーナー・モードに入ったときに点滅します。

### ⑪ バッテリー・エンプティ・アイコン

電池容量が少なくなったときに点灯します。

### ⑫ プログラム名/エフェクト・タイプ表示

プログラム名やエフェクト・タイプ等を表示します。また、バイパス/ミュート時にチューナーのメーターとなります。

### ⑬ エディット・モード・アイコン

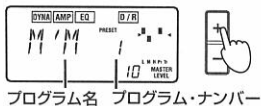
エディット・モードに入ったときに点灯します。



## 音を出してみよう

### □ ヘッドホン、ライン、ベース・アンプを使用する場合

- ① 接続を終えたら、パワー・スイッチを“ON”にします。(この状態をプレイ・モードと呼びます。) +/− ボタンでプログラムを選びます。音量のチェックに適したクリーン系のプログラムを選びます。(ここでは例としてプリセット・プログラム 1 “M’M” を選びます。)

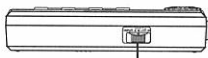


- ② 使用するベースの出力の大きさに合わせて、入力レベル・スイッチを設定してください。

Hi: 出力の大きいベース(アクティブ・タイプのピックアップ)

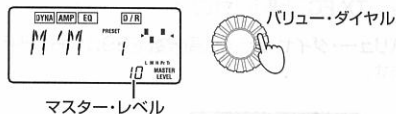
Lo: 出力の小さいベース

(パッシブ・タイプのピックアップ)



- ③ ベースのボリュームを、通常演奏する程度に合わせて弾いてみます。

バリュー・ダイヤルでマスター・レベルを調整します。



### □ FMトランスミッターを使用する場合 (FMトランスミッターの使い方)

PANDORAの送信周波数(88.1~89.9MHzの範囲で設定)とFMラジオの受信周波数を合わせると、FMラジオでPANDORAの音を聞くことができます。

- ① プレイ・モードでEDIT▶ ボタンを押します。(この状態をエディット・モードと呼びます。)

EDIT▶ ボタンを何回か押して、トランスミッターのアイコンが点滅している画面を選びます。



- ② **BYPASS・TUNE**ボタンを押して、トランスミッターをONにします。

ONにすると、約1秒間“TX ON”と表示されます。その後、“TX FC”と表示されます。

- ③ **バリュー・ダイヤル**で送信周波数を89.1 MHz (例)にします。



- ④ ベースを弾きながら、FMラジオの受信周波数を89.1 MHzに合わせます。

- ⑤ **EXIT**ボタンを押して、プレイ・モードに戻ります。

- !** FMトランスミッターは、FMラジオと同じ部屋の中で3m以内の範囲で使用してください。また、放送局の周波数からできるだけ離れた周波数を選んでください。選んだ周波数や環境によって、出力音に「ピー」という音が混ざることがあります。

このようなときは、周波数を変更して使用してください。

- !** プログラムの設定やFMラジオによっては、ラジオからの出力が歪む場合があります。このようなときは、マスター・レベルやエフェクトのプログラム・レベルを歪まなくなるまで下げてください。

- !** FMトランスミッターをONにしておくと、電池の消耗が早くなります。FMトランスミッターを使用しないときは、FMトランスミッターをOFFにしておいてください。

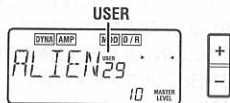
## プレイ・モード

通常の演奏を行うモードです。

### 1. プログラムの選択

プログラム(音色)は、50個のユーザー・プログラムと50個のプリセット・プログラムから選ぶことができます。+/-ボタンを押して、プログラムを選びます。

プログラムによってプログラム・ナンバーの上に **USER** または **PRESET** が点灯します。

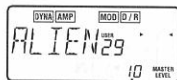


ユーザー・プログラムの場合

プログラムは、リズム・トレーナー・モード、AUXエフェクト・モード、フレーズ・トレーナー・モードに入っているときでも選択できます。

### 2. マスター・レベル

**MASTER LEVEL** が点灯しているときは、マスター・レベルがバリュー・ディスプレイに表示されます。



バリュー・ダイヤル

バリュー・ディスプレイ

電源をONにした直後は、バリュー・ダイヤルでマスター・レベルを変更する設定になっています。+/-ボタンでマスター・レベルを変更することもできます。(P.15)  
マスター・レベルは、電源をOFFにしても記憶されます。

### 3. バイパス/ミュート

**BYPASS・TUNE** ボタンを押すとバイパス状態になり、エフェクトのかからない音が出力されます。  
エフェクト・チェーンが点滅し、約1秒間 "PASS" と表示されます。



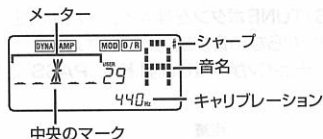
**BYPASS・TUNE** ボタンを1秒以上押すとミュート状態になり、音が出なくなります。  
エフェクト・チェーンが速く点滅して、約1秒間 "MUTE" と表示されます。



もう一度BYPASS・TUNEボタンを押すか、プログラムを変更すると、バイパス/ミュートが解除されます。

#### 4. チューナー

プレイモードでバイパス/ミュートにすると、チューナーが動作します。



ベースの弦を弾いてください。LCDに音名とキャリブレーションが表示されます。音名より半音高いときは、音名の右上にシャープが点灯します。

文字表示の部分がメーターになり、ピッチ(音の高さ)のスレを表示します。中央のマークの上が点灯するように、弦をチューニングしてください。

BYPASS・TUNEボタンを押すか、プログラムを変更すると、チューナー(バイパス/ミュート)が解除されます。

#### キャリブレーション(基準ピッチAの周波数)

キャリブレーションは、バリュー・ダイヤルでA=438～445Hzの範囲で変更できます。

キャリブレーションの変更は、電源をOFFにするまで有効です。一度電源をOFFにし、再び電源をONにしたときはA=440Hzになります。

#### 5. HBB (Hyper Bass Boost)

小さなヘッドホンを使用したときに、損なわれる低音を補います。ベース・アンプやミキサーに接続した場合でも、重低音と音の張りを強調した効果が得られます。


HBBボタンでHBBのON/OFFを切り替えます。HBBがONになると、LCDにHBBアイコン(♫)が点灯します。電源をOFFにしても、HBBのON/OFFの状態は記憶されます。再度電源をONにしたときに同じ状態になります。



⚠ バイパス/ミュート時には、ON/OFFの切り替えはできません。

EQの設定でLOWがブーストされている場合にHBBをONにすると歪むことがあります。この場合EQのTRIMを下げ調整してください。

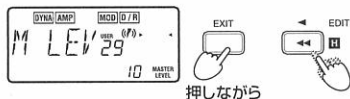
## 6. バリュー・ダイヤル機能設定

 この設定は、プレイ・モード時のみ有効です。

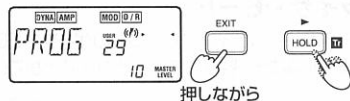
バリュー・ダイヤルにプレイ・モード時の機能を割り当てます。プレイ・モードで、EXITボタンを押しながらEDIT◀ボタン、EDIT▶ボタンまたはBYPASS・TUNEボタンを押すと、以下の機能が割り当てられます。

 この設定は、バイパス/ミュートでは変更できません。

- EXITボタンを押しながら、EDIT◀ボタンを押します。LCDに約1秒間“M LEV”と表示されます。バリュー・ダイヤルにマスター・レベルが、+/-ボタンにプログラムの選択が割り当てられます。バリュー・ダイヤルでマスター・レベルをすばやく変更できます。電源をONにしたときは、常にこの設定になります。



- EXITボタンを押しながら、EDIT▶ボタンを押します。LCDに約1秒間“PROG”と表示されます。バリュー・ダイヤルにプログラムの選択が、+/-ボタンにマスター・レベルが割り当てられます。バリュー・ダイヤルで、プログラムをすばやく選ぶことができます。



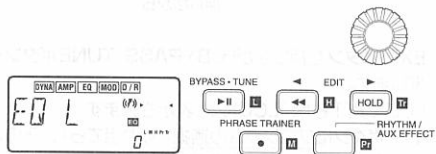
- EXITボタンを押しながら、BYPASS・TUNEボタンを押します。LCDに約1秒間“LOCK”と表示されます。+/-ボタンにプログラムの選択が割り当てられ、その他のボタンとバリュー・ダイヤルは機能しません(キーロック)。プログラムの選択しかできませんので、ステージ等で使用したときに誤操作を防げます。




設定を変更するには、もう一度EXITボタンを押しながら、その設定のボタンを押してください。

## イコライザ・モード


このモードでは、イコライザの各バンドのゲインをEQディスプレイで確認しながら、容易にエディットすることができます。



- Lボタン: “EQ L” 低音域を選択
- Mボタン: “EQ M” 中音域を選択
- Hボタン: “EQ H” 高音域を選択
- Prボタン: “EQ PR” 超高音域を選択
- Trボタン: “EQ TR” トリムを選択
- バリュー・ダイヤル: ゲインの調整

 エディットした値を保存するには、「[10] WRITE」を行ってください。「[10] WRITE」を行わずに電源をオフにしたり、他のプログラムに切り替えると元の設定に戻ります。

EXIT ボタンを押しながらHBB ボタンを押します。  
LCDに“EQ L”が表示され、EQアイコンが点灯してイコライザ・モードに入ります。

 イコライザがOFFのプログラムでこの操作をすると、強制的にイコライザがONになります。

バリュー・ダイヤルを回すとイコライザのLOWバンドのゲインを調整できます。必要に応じて、L (BYPASS・TUNE [▶II])、M (PHRASE TRAINER [●])、H (EDIT [◀◀])、Pr (RHYTHM/AUX EFFECT)、Tr (EDIT [▶HOLD]) のボタンを押してLCDに値を表示させ、バリュー・ダイヤルを回して、ゲインを調整します。  
EXIT ボタンを押すとプレイ・モードに戻ります。

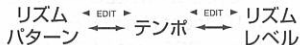


## リズム・トレーナー・モード

プレイ・モード(ミュート/バイパス、キー・ロック時を除く)、AUXエフェクト・モード、フレーズ・トレーナー・モードでRHYTHM/AUX EFFECT ボタンを1回押すと、リズム・トレーナー・モードに入ります。

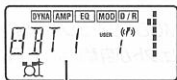
このモードに入ると、選ばれているリズムがスタートし、リズム・トレーナー・モード・アイコンが点滅します。

このモードでは、以下の3つのパラメーターがあります。EDIT ◀▶ ボタンでパラメーターを選び、バリュー・ダイヤルで、それぞれのパラメーターの値を設定します。EXIT ボタンを押すとプレイ・モードに戻ります。



### 1. リズム・パターン

リズム・パターン(50種類)を選びます。



リズム・パターン



バリュー・ダイヤル: リズム・パターンを選択

### 2. テンポ

♩=40~208の範囲でテンポを設定します。



テンポ表示



バリュー・ダイヤル: テンポを設定

### 3. リズム・トレーナー・レベル

リズム音のレベルを設定します。



レベル表示



バリュー・ダイヤル: リズム音のレベルを設定

## AUXエフェクト・モード

このモードでは、AUX端子に接続されたCDやMDの音をキー・トランスポーズ(K-TRN)したり、低音域を消すベース・キャンセル(B-CAN)ができます。

リズム・トレーナー・モードでRHYTHM/AUX EFFECTボタンを1回押すと、AUXエフェクト・モードに入ります。

このモードに入ると、AUXエフェクト・アイコンが点滅します。

EXITボタンを押すとプレイ・モードに戻ります。

EDIT ◀/▶ ボタン: K-TRNまたは、B-CANの表示切替え

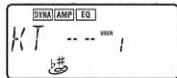
BYPASS・TUNE ボタン: K-TRN、B-CANのON/OFF

バリュー・ダイヤル: トランスポーズの値を設定

+/- ボタン: プログラムの選択

### K-TRN表示

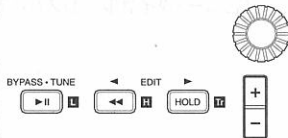
#### OFF時の表示



#### ON時の表示

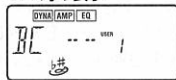


100cent単位の表示



### B-CAN表示

#### OFF時の表示



#### ON時の表示



キー・トランスポーズの可変幅は、 $\pm 1200\text{cent}$  ( $\pm 1$ オクターブ)です。

キーを上げるときは、 $300\text{cent}$  (上3半音)まで10cent刻みで、それ以上は100cent (半音)刻みです。

キーを下げるときは、 $-300\text{cent}$  (下3半音)まで10cent刻みで、それ以上は100cent (半音)刻みです。

▲ K-TRNまたはB-CANがONのときは、モノラル出力となります。K-TRNとB-CANの両方がOFFのときは、ステレオ出力となります。

▲ このモードに入ると、MOD (モジュレーション)とD/R (ディレイ/リバーブ)のエフェクトが自動的にOFFになります。


▲ B-CANは、入カソースによっては十分効果がでない場合があります。

## フレーズ・トレーナー・モード

AUX端子に接続されたCDやMDからのフレーズや、INPUT端子に接続した自分で弾くベースを録音して、ループ(繰り返し)再生します。それに合わせて、フレーズの繰り返し練習をすることができます。また、ピッチ(音の高さ)を固定して再生スピードを落とすことができるので、聞き取りにくいフレーズのコピーや練習に役立ちます。

EXITボタンを押すとプレイ・モードに戻ります。

また、RHYTHM/AUX EFFECTボタンを押すとリズム・トレーナー・モードに入ります。

 このモードに入ると、MOD(モジュレーション)、D/R(ディレイ/リバブ)とAUXエフェクトが自動的にOFFになります。

### 1. 録音モードの選択

プレイ・モード(バイパス/ミュート、キー・ロック時を除く)、リズム・トレーナー・モード、AUXエフェクト・モードでPHRASE TRAINER [●] ボタンを押して、フレーズ・トレーナー・モードに入ります。

このモードに入ると、録音モードの選択画面が表示され、フレーズ・トレーナー・モード・アイコンが点滅します。

この画面で録音待機状態となります。




ここでは、録音モード(AUX S: AUX高音質、AUX L: AUX長時間、BAS S: ベースINPUT高音質、BAS L: ベースINPUT長時間)を選びます。

AUX S、BAS Sでは最大8秒間、AUX L、BAS Lでは最大16秒間の録音ができます。録音するフレーズに応じて選んでください。

パリュー・ダイヤル: 録音モードを選択

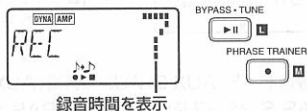
[●] ボタン: 録音開始

CD等をスタートさせ、録音を開始したいところで[●] ボタンを押してください。録音を開始します。

 いったんフレーズを録音してしまうと、録音モードは変更できません。録音モードを変更したいときは、一度他のモードに抜けてから再度フレーズ・トレーナー・モードに入ってください。

## 2. 録音中

【●】ボタンを押して録音を開始すると、録音時間が数値で表示されます。



録音を終了したいところで、【●】ボタンまたは【▶||】ボタンを押してください。

録音が終了して、自動的にループ再生を開始します。

録音を途中で終了しないかぎり、選んだ録音モードの最大時間まで録音します。

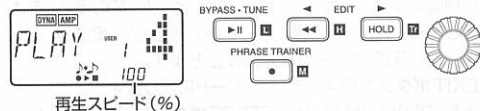
フレーズは、モノラルで録音/再生されます。

【●】ボタン / 【▶||】ボタン: 録音終了、再生開始

## 3. 再生

録音したフレーズをループ再生します。

再生/一時停止中は、+/-ボタンでプログラムを選択できます。



バリュー・ダイヤルを左に回すと、ピッチを固定して再生スピードを落とすことができます。

再生スピードは、100%、95%、90%...25%と5%刻みで減速できます。

また、再生時に【HOLD】ボタンを押すと、押した時点の音を保持することができます(ホールド機能)

【▶||】ボタン: 一時停止/再生

【●】ボタン: 再録音

【◀◀】ボタン: 巻戻し

【HOLD】ボタン: ホールド機能ON/OFF

バリュー・ダイヤル: 再生スピード設定

⚠ EXITボタンまたはRHYTHM/AUX EFFECTボタンを押すと、録音されたフレーズは消去されます。

## 4. 一時停止

▶|| ボタンを押すと、再生が一時停止します。もう一度

▶|| ボタンを押すと、再生を開始します。

一時停止中に[◀◀] ボタンを押すと、録音したフレーズの先頭に戻ります。



▶|| ボタン: 一時停止/再生

● ボタン: 再録音

◀◀ ボタン: 頭出し

バリュー・ダイヤル: 再生スピード設定

## 録音し直すときは

録音し直すときは、▶|| ボタンを押して一時停止にします。一時停止中は、AUXやINPUTに接続された機器の音が出力されます。この状態で、入力ソースの頭出しができます。CD等をスタートさせ、録音を開始したいところで● ボタンを押してください。

## エディット・モード

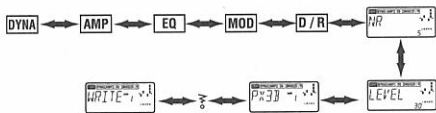
各エフェクトのON/OFF、エフェクト・タイプ、パラメーターの値、FMトランスミッター等をエディットすることができます。プレイ・モードでEDIT▶ボタンを押すと、エディット・モードに入ります。

EXITボタンを押すとプレイ・モードに戻ります。

### 1. エディットするエフェクト等の選択

EDIT◀/▶ボタンで、エディットするエフェクト等を選択してください。

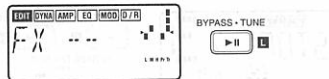
EDIT◀/▶ボタンを押すごとに、下図の順にエフェクト等を選ぶことができます。エフェクトが選ばれているときは、そのアイコンが点滅します。



### 2. 各エフェクトのエディット

各エフェクトのエフェクト・タイプ(エフェクトの種類)や、それぞれのパラメーターの値を設定することができます。OFFになっているエフェクトは、エディットできません。

エフェクトがOFF時の表示



エフェクトをONにするときは、EDIT◀/▶ボタンでエフェクトを選び、BYPASS・TUNEボタンを押します。エフェクト・タイプとパラメーターの詳細については、エフェクト・パラメーター(※P.28)を参照してください。またリネーム、トランスミッター、プログラムのライトもここで設定します。

## 1) DYNA(ダイナミクス)

コンプレッサー、オーバードライブ、ディストーション等の主にベースの音色を作るダイナミクス系のエフェクトです。



**BYPASS·TUNEボタン:** エフェクトのON/OFF  
**+/-ボタン:** エフェクト・タイプを設定  
**バリュー・ダイヤル:** パラメーターの値を設定

## 2) AMP(アンプ)

ベース・アンプをモデリングした迫力あるサウンドが得られます。SLD、TUBEタイプではバリュー・ダイヤルでライン(ダイレクト)・サウンドとモデリング・サウンドのミックス・バランスを、HI-Gタイプではアンプのブースト量を調整できます。



**BYPASS·TUNEボタン:** エフェクトのON/OFF  
**+/-ボタン:** アンプ・タイプの選択  
**バリュー・ダイヤル:** ミックス・バランス、ブーストの設定

## 3) EQ(イコライザ)

音質を調整する、4バンドのグラフィック・イコライザです。



**BYPASS·TUNEボタン:** エフェクトのON/OFF  
**+/-ボタン:** バンド、トリムの選択  
**バリュー・ダイヤル:** ゲイン、トリムの値を設定

**⚠** EQの設定によっては出力が歪んで(クリップ)してしまったり、逆に小さめになってしまうことがあります。そのときはトリムで適切な出力に設定してください。

## 4) MOD(モジュレーション)

コーラス、フランジャー、フェイザー、ピッチ・シフター等の変調系エフェクトです。



**BYPASS·TUNEボタン:** エフェクトのON/OFF  
**+/-ボタン:** エフェクト・タイプを設定  
**バリュー・ダイヤル:** パラメーターの値を設定

## 5) D/R (ディレイ/リバーブ)

ディレイ、リバーブ等の残響系エフェクトです。



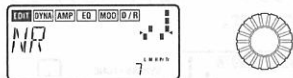
**BYPASS·TUNE ボタン:** エフェクトのON/OFF

**+/- ボタン:** エフェクト・タイプを設定

**バリュー・ダイヤル:** エフェクト・レベルを設定

## 6) NR (ノイズ・リダクション)

ノイズ・リダクションのかかり具合を調整します。値を大きくするほど、ノイズを抑える効果は強くなります。通常は、ベースの弦を軽くミュートしたときに、ノイズが気にならない程度に調整します。



**バリュー・ダイヤル:** ノイズ・リダクションのかかり具合を調整

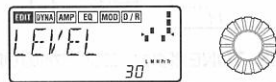
⚠ ノイズ・リダクションはOFFになりません。

⚠ 値が大きすぎると、接続する楽器によっては音が途切れることがあります。そのときは値を下げてください。

## 7) LEVEL (レベル)

各プログラムのレベルを設定します。

エフェクトの設定によっては、出力が歪んで(クリップ)してしまう場合がありますので、ここで歪まない程度に調整してください。

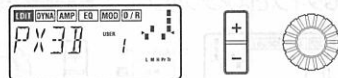


**バリュー・ダイヤル:** 各プログラムのレベルを調整

⚠ 使用するベースによって、各プログラムの音量が変化します。ベースに合わせて、レベルを調整してください。

## 8) RENAME (リネーム)

プログラムの名前(5文字)を設定できます。



**+/- ボタン:** カーソル(点滅します)の移動

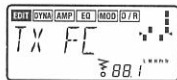
**バリュー・ダイヤル:** 文字を設定

使用できる文字は空白、0~9、A~Z、'、'、\*、+、-、/、です。



## 9) TX (FMトランスミッター)

FMトランスミッターのON/OFFと、送信周波数を設定します。送信周波数は88.1 MHzから89.9MHzまで、0.2MHz刻みで設定できます。



BYPASS・TUNE



**BYPASS・TUNEボタン:** FMトランスミッターのON/OFF

**バリュー・ダイヤル:** 送信周波数を設定

FMトランスミッターの設定は、電源をOFFにしても記憶されます。

## 10) WRITE (ライト)

エディットしたプログラムや、自分で作ったプログラムをライト(記憶)することができます。



BYPASS・TUNE



ライト先をバリュー・ダイヤルで選びます(ユーザー・プログラムのみ)。そのとき、ライト先のプログラム名が一瞬表示されます。

ライトを中止するときは、EDIT ◀ ボタンを押して他の画面を選んでください。

**BYPASS・TUNEボタン**を押すと、エディットしたプログラムがライトされます。

ライトが完了すると、LCDに約1秒間"COMPL"と表示されます。

**BYPASS・TUNEボタン:** ライト

**バリュー・ダイヤル:** ライト先のユーザー・プログラム・ナンバーを選択

⚠ エディットしたプログラムを他のプログラム・ナンバーにライトする場合は、上書きしてもよいかどうかをあらかじめ確認してください。上書きされたプログラムは消えてしまいますので、ご注意ください。

⚠ プリセット・プログラムには、ライトすることはできません。

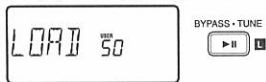
### 3. 工場出荷時のプログラムの再ロードのしかた


HBBボタンと+ボタンを押しながら、電源をONにしてください。LCDに“PLOAD?”と表示されます。



再ロードを中止するときは、EXITボタンを押してください。  
再ロードされずに電源ON時の画面になり、プログラム・モードに入ります。

BYPASS・TUNEボタンを押すと、工場出荷時のプログラムがユーザー・プログラムに再ロードされ(順次“LOAD”、“VERI”、“COMPL”と表示)しばらくすると、電源ON時の画面になります。



 工場出荷時のプログラムを再ロードするとユーザー・プログラムは全て書き替わりますのでご注意ください。

## 故障かな?と思ったら

故障かな?と思ったら、まず以下のことを確認してください。  
症状が改善されない場合は、お近くの販売店またはコルグ営業技術課までお問い合わせください。

### 1. 電源がONしない。

- \* 電池が入ってますか? または、コンセントにACアダプターが接続されていますか?

### 2. 音が出ない。

- \* ベース、アンプ、ヘッドホンは、それぞれの端子に正しく接続されていますか?
- \* アンプの電源がONになっていて、正しく設定されていますか?
- \* 接続コードは断線していませんか?  
ヘッドホンを接続して音が出れば、PANDORAの出力以降の接続に問題があります。
- \* マスター・レベルの値が“0”または小さい値になっていませんか?
- \* プログラムのレベルが“0”または小さな値になっていませんか?

- \* ミュート(エフェクト・チェーンが速く点滅)になっていませんか?  
すべてのエフェクトがOFFのときは、エフェクト・チェーンが消えてしまいますので、ご注意ください。

- \* ベースの音をしばっていませんか?

### 3. FMトランスミッターを使用した場合で、音がでない、音がきたない。

- \* PANDORAのFMトランスミッターがONになっていますか?
- \* PANDORAとFMラジオ/FMチューナの周波数が合っていますか?
- \* PANDORAとFMラジオ/FMチューナのアンテナとの距離は3m以内ですか?
- \* FMラジオ/FMチューナの電源がONで、正しく動作していますか?  
プログラムの設定によって出力音が歪む場合があります。(マスター・レベル、プログラムのレベルを調整してください。)

#### 4. AUX端子に接続した機器からの音量が大きい、小さい、音が出ない。

- \* 接続した機器の出力レベルを調整してください。  
接続した機器のライン出力ではなく、ヘッドホン端子を接続してください。
- \* フレーズ・トレーナー・モードになっていませんか？  
フレーズ・トレーナー・モードから抜けてください。
- \* 抵抗入りの接続ケーブルを使っていませんか？

#### 5. エフェクトがかからない

- \* バイパス(エフェクト・チェーンが点滅)になっていませんか？
- \* プログラムで使用するエフェクトがONになっていますか？  
モードにより使用できないエフェクト(MOD、D/R)があります。

#### 6. チューナが動作しない。

- \* バイパスまたはミュートになっていますか？

## エフェクト・パラメーター

### DYNA

TYPE (+/-ボタン)		VALUE (バリュー・ダイヤル)
COMP	コンプレッサー	感度を設定 (1...30)
OVDRV	オーバードライブ	
DIST	ディストーション	ゲインを設定 (1...30)
OCT	オクターブ	エフェクト・レベルを設定 (1...30)
OCTDS	オクターブ・ディストーション	

### AMP

TYPE (+/-ボタン)		VALUE (バリュー・ダイヤル)
SLD1	チョッパーを含めオールマイティに使えるモダンなアンプ	バランスを設定 (1...30)
SLD2	固めの音のアンプ。	
TUBE1	オールドタイプの低域のウォームなアンプ	
TUBE2	指弾きに適している低中域のマイルドなアンプ	
HI-G1	低域がブーミーなオーバードライブ・アンプ	ブースト量を設定 (1...30)
HI-G2	ハードロック系に適したオーバードライブ・アンプ	

### EQ

TYPE (+/-ボタン)		VALUE (バリュー・ダイヤル)
LOW	低域のゲイン	ゲインを設定 (-15...15)
MID	中域のゲイン	
HIGH	高域のゲイン	
PRESN	超高域のゲイン	
TRIM	トリム (ゲインの微調整)	トリムを設定 (-20...10)

## MOD

TYPE (+/-ボタン)		VALUE (バリュー・ダイヤル)
CH01	コーラス	効果の深さを設定 (1...30)
CH02	コーラス	
CH03	深めのコーラス	
CH04	ダブリング・コーラス	
VIB	音程が周期的に変わるビブラート	
FLN1/2/3	フランジャー (1, 2, 3でそれぞれフィードバック量が異なります)	変調スピードを設定 (1...30)
FLN4	フィードバックが逆相のフランジャー	
PHA1	ピンテージ・タイプのフェイザー	
PHA2	ピークが強めのフェイザー	
PHA3	PHA1のフィードバックを逆相にしたもの	
PHA4	PHA2のフィードバックを逆相にしたもの	
TREM	トレモロ	
PAN	オート・パン	
AWAH1	オート・ワウ	感度を設定 (1...30)
AWAH2	AWAH1とは逆方向に動くオート・ワウ	
FILT	固定されたフィルター	周波数を設定 (1...30)
PIT1/2/3	ピッチ・シフター (1, 2, 3でそれぞれエフェクト音のレベルが変わります)	ピッチ・シフト量を設定 (-24, -17, -12...-1, -d, d, 1...12, 19, 24)
PIT4	エフェクト音とドライ音が左右に分かれるピッチ・シフター	
		[d: デチューン]

## D/R

TYPE(+/-ボタン)		VALUE(バリュー・ダイヤル)
ROOM1	厚みのあるルーム・タイプのリバーブ	エフェクト・レベルを設定(1...30)
ROOM2	明るめのルーム・タイプのリバーブ	
GARA1	ガレージ・タイプのリバーブ1	
GARA2	ガレージ・タイプのリバーブ2	
HALL	ホール・タイプのリバーブ	
ARENA	アリーナ・タイプのリバーブ	
DL 40 ...900	ステレオ・ディレイ 40...900[ms]	
D1000 ...2000	ステレオ・ディレイ 1000...2000[ms]	

## NR

		VALUE(バリュー・ダイヤル)
NR	ノイズ・リダクション	効果の深さを設定(1...30)

## プリセット・プログラム・リスト

No.	Name	No.	Name	No.	Name
1	M'M	2	RAIN	3	J'P
4	WHITE	5	JELLY	6	SMOKE
7	FIRE	8	WAR	9	CORN
10	BOOT	11	70'S	12	RODED
13	MOCIT	14	SLAP1	15	FING1
16	PICK1	17	AJ 70	18	OMEGA
19	ALPHA	20	D WAH	21	80'S
22	FRESH	23	SLAP2	24	FING2
25	PICK2	26	RAZOR	27	FUNKY
28	SYNTH	29	ALIEN	30	90'S
31	CLUB	32	DANCE	33	SLAP3
34	FING3	35	PICK3	36	JQWAH
37	TANK	38	VOX	39	BLUES
40	SALP4	41	FING4	42	PICK4
43	CHORS	44	PHAS	45	TREM
46	OCTAV	47	OVD	48	FUZZ
49	FILTR	50	ATWAH		



## リズム・パターン・リスト

No.	Name	No.	Name	No.	Name
1	8BT1 (8BEAT1)	2	8BT2 (8BEAT2)	3	8BT3 (8BEAT3)
4	8BT4 (8BEAT4)	5	8BT5 (8BEAT5)	6	8BT6 (8BEAT6)
7	8SHFL (8SHUFFLE)	8	16BT1 (16BEAT1)	9	16BT2 (16BEAT2)
10	16BT3 (16BEAT3)	11	16BT4 (16BEAT4)	12	16BT5 (16BEAT5)
13	16SF1 (16SHUFFLE1)	14	16SF2 (16SHUFFLE2)	15	16SF3 (16SHUFFLE3)
16	16SF4 (16SHUFFLE4)	17	3/4	18	6/4
19	6/8	20	BALAD (BALLAD)	21	BLUES
22	ROCK	23	THRSH (THRASH)	24	DANC1 (DANCE1)
25	DANC2 (DANCE2)	26	DISCO	27	EURO
28	FUNK	29	JAZZ1	30	JAZZ2
31	MOTWN (MOTOWN)	32	REGG1 (REGGAE1)	33	REGG2 (REGGAE2)
34	SURF	35	CNTRY (COUNTRY)	36	BOSSA (BOSSA NOVA)
37	SAMBA	38	PRACO (PRACTICE0)	39	PRAC1 (PRACTICE1)
40	PRAC2 (PRACTICE2)	41	PRAC3 (PRACTICE3)	42	PRAC4 (PRACTICE4)
43	PRAC5 (PRACTICE5)	44	PRAC6 (PRACTICE6)	45	PRAC7 (PRACTICE7)
46	PRAC8 (PRACTICE8)	47	PRAC9 (PRACTICE9)	48	METR1 (METRONOME1)
49	METR2 (METRONOME2)	50	METR3 (METRONOME3)		

## 仕様

- エフェクト数: 44タイプ(最大同時使用エフェクト数: 7)
  - プログラム数: ユーザー50、プリセット50
  - 入力: ベース・インプット(標準モノラル・ジャック)、AUX(ミニ・ステレオ・ジャック)
  - 出力: ライン/ヘッドホン兼用アウト・プット(標準ステレオ・ジャック)
  - チューナ部  
測定範囲: 27.5Hz~2,093Hz(A0~C7)  
キャリブレーション: A=438~445Hz
  - リズム・トレーナー部テンポ: ♩ = 40~208
  - FMトランスミッター送信周波数: 88.1MHz~89.9MHz(0.2MHzステップ)
  - 電源: 単4アルカリ乾電池4本  
連続約9時間使用可能(FMトランスミッターOFF、ヘッドホン使用、バックライトOFF)  
連続約6時間使用可能(FMトランスミッターON、ヘッドホン使用なし、バックライトOFF)  
または別売ACアダプター(コルグA30960J)
  - 外形寸法(W×D×H): 119.5mm×75.7mm×26.9mm(突起部含まず)
  - 重量: 138g(乾電池を含まず)
  - 付属品: 取扱説明書
  - オプション: ACアダプター(A30960J)
- 外観及び仕様は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

## 保証規定

### ご注意（必ずお読みください）

この製品は、当社の厳密な製品検査に合格したものです。万一保証期間内に製造上の不備に起因する故障の生じた場合は下記の保証規定により無償修理いたします。

### 保証条件

1. 本保証書の有効期間はご購入日より1ヶ年です。
2. 次の場合の修理は保証期間内であっても有料修理となります。

- 消耗部品（電池など）を交換する場合。
- お取り扱い方法が不適当のために生じた故障の場合。
- 天災（火災、浸水等）によって生じた故障。
- 故障の原因が本製品以外の、他の機器にある場合。
- コルグサービスステーション及び、コルグ指定者以外の手により修理、改造された部分の処理が不適当であった場合。
- 保証書に販売店名、ご購入日などが記入されていない場合あるいは、字句を書き替えられた場合。
- 本保証書の提示がない場合。
- 日本国外で使用される場合。

尚、当社が修理した部分が再度故障した場合は保証期間外であっても、修理した日より3ヶ月以内に限り無償修理となります。

3. 保証期間が切れますと修理は有料になりますが、引き続き、製品の修理は責任を持ってさせていただきます。修理用性能部品（電子回路など）は通常8年を基準に保有しております。ただし外装部品（パネルなど）の修理は類似の代替品を使用することもありますのでご了承ください。
4. 修理や運送費用が、製品の価格より高くなることもありますので、あらかじめコルグサービスステーションまたはインフォメーションへご相談ください。運送にかかる往復の費用は、お客様のご負担とさせていただきます。
5. お客様が保証期間中に移転された場合でも、保証は引き続きお使いいただけます。移転先のコルグ製品お取り扱い楽器店、またはコルグ営業技術課までお問い合わせください。

### お願い

- 本保証書に販売年月日の記入がない場合は無効となります。
- ※ 修理は、ご購入の販売店に必ず本保証書を提示の上、ご依頼ください。記入不可能な場合はご購入年月日を証明できる領収書等と一緒に保管してください。
  - ※ 本書は再発行致しませんので、紛失しないよう大切に保管して下さい。

ベース・パーソナル・マルチ・エフェクト・  
プロセッサ PANDORA PX3BT

## 保証書

(日本国内有効)

本書は当社の保証規定により無料修理を行うことをお約束するものです。お買い上げの日から満1年の間に万一故障が発生した場合は製品と共に本書をお買い上げの販売店にご持参の上、修理をご依頼ください。

お買い上げ日                      年            月            日

販売店名

## ▲ アフターサービス

上記の保証規定によりアフターサービスをいたします。アフターサービスについてご不明の点は下記へお問い合わせください。

### ▼▲▼ 株式会社コルグ ▼▲▼

インフォメーション	〒168-0073	東京都杉並区下高井戸 1-11-17	☎(03)5376-5022
東京営業所	〒168-0073	東京都杉並区下高井戸 1-11-17	☎(03)3323-5241
名古屋営業所	〒466-0825	名古屋市昭和区八事本町 100-51	☎(052)832-1419
大阪営業所	〒531-0072	大阪市北区豊崎 3-2-1 淀川5番館7F	☎(06)6374-0691
福岡営業所	〒810-0012	福岡市中央区白金 1-3-25 第2池田ビル1F	☎(092)531-0166

修理等のお問い合わせは最寄りの各営業所、または下記までお問い合わせください。

営業技術課 〒143-0001 東京都大田区東海 5-4-1 明正大井5号営業所 コルグ物流センター内 ☎(03)3799-9085